

## 第85の山登頂記

今回(5月26日)は、永年会員になっている(社)日本自動車連盟(いわゆるJAF)山口支部が企画した

「秋吉台トレッキング」(副題:3億5千万年のタイムトラベル 五月(さつき)の秋吉台と展望を巡る)に、山の会の仲間4人で参加。

事前に詳しいコース案内は無く、平坦地のハイキングと想像していたが、当日、秋吉台の最高峰・龍護峰(標高425.5M)にも登ると説明あり、はからずも登山をすることに……。龍護峰は、昨年7月、地元山の会の定例登山で登った山です。

私達の仲間は、公民館に9時に集合。車で約40分ほどで、指定された秋吉台家族旅行村駐車場に到着。三三五五、同イベントの参加者が集まり、JAFの人に到着を告げる。10時過ぎに、参加者19名(うち小2と小4の子も含む。女性の参加者が多い)と、JAFの2名、更に今回のインストラクター1名、全員集合。

インストラクターは、秋吉台の少し北部の大正洞に隣接するエコミュージアム(秋吉台の自然、地形、歴史を紹介する施設)から派遣されていた自然解説指導員の田原さん(男性。年齢は30代?)。学生時代、蛙の研究をしていたと言う田原さんは、運悪く蛙の少ない秋吉台地区に勤務することとなったけれど、いろいろそれなりに勉強しているようで、秋吉台の自然についての説明は、のべつ幕なし。お陰で、秋吉台にある花や蝶々について、少しは知ることになったのです。

僅かですが、その一端を写真で紹介しましょう(実は、これ以上は殆ど記憶に乏しいのです)。

最初(写真No37791)は、ヤマイバラで、花も可愛いのですが、教えられて嗅いだ香が素敵な花でした。

2つ目(写真No378012)は、ノイバラです。ヤマイバラ同様、これも名前の通りバラ科の花で、可憐な花です。

その3(写真No378413)は、ハシナガヤマサギソウです。名前は長いですが、順に、くちばし(ハシ)の長い、ラン科のサギソウです。教えられて見ると、その後の道々に結構沢山咲いていました。

次(写真No3792-13)は、「カノコソウ」で、上から見るとぼつぼつと薄紫の蕾が、鹿の子紋りに見えることから、この名が付いた由。

蝶も何種類か説明してくれました。「もんしろちょう」ならぬ「もんきちょう」とか、「つまぐろなんとか…」とか。(写真No378913)の分は、名前は忘れましたが、同じ女性の手袋から、何度も離れては、戻って来ていました。“虫に好かれて良かったですね。”と、言ったものです。

山は、登山口より、最初、両脇に雑木の繁る木陰の道を20分ほどで抜け、立木の少ない道に出る。今回は、日照りが弱く幾分助かる。くぼ地になっている処(ドリーネ)で、「ここは民間の所有地で、国立公園の中にも、何か所かこういうところがあります。」との説明。くぼ地の底の方に、先ほどのカノコソウが一杯咲いていました。

少しして、脇道に逸れ、「ここは以前、大理石を掘っていたところ。残った石の中に、「フズリナ」(有孔虫)が化石がある。」との説明。小さくて解りにくかったが、拡大鏡で見せてもらい、渦巻き状の貝の形が見えた。

もとの登山道へ引き返し、秋吉台らしい景観(写真No3783-11)や小鳥の声を楽しみながら歩き、12時前に、途中の小高い鍋を伏せたようなおはち山(標高406M)に到着。ここで、インストラクターのお兄ちゃんが、やおらビールジョッキを取り出し、小石を入れ、更に水を入れると泡がシューッと。水じゃなく薄い塩酸で、石灰石を少し溶かして、先ほど説明の貝の化石を見易くしていたのでした。全員に記念のお土産となった。

更に、少しアップダウンし、12時半頃、目指す龍護峰に到着。JAF係員による集合写真撮影の後、それぞれの仲間とお弁当。今回は、ビールはビールでもノンアルコールの分で喉を潤した。氷をくっ付けていたので、良く冷えていて美味しいー。背中にうっすらと汗を掻き、薄く霞んだ太陽のある陽気のなか、時折、ひんやりとした風が吹き渡り気持ちいい。

周囲は、うすーく霞んでいるが、まずまずの見晴らし。詳しい人の説明により、周囲の花尾山、桂木山、鳳翫山、荒滝山など、幾つか以前登った山々が確認できた。13時頃、龍護峰頂上の標柱のあたりに集合し、インストラクターによる秋吉台の成り立ち、現在の石灰石の使われ方などの説明の後、下山開始。

途中より違うルートを辿り、道々ワラビを収穫しながら下り、14時頃、もとの駐車場近くの管理棟付近に到着。インストラクターさんやJAF関係者の最後のご挨拶後解散。

我々は、帰りに、山口・棚田20選の一つ、美祢市秋吉町嘉万半田の棚田を巡回して、出発地(公民館)へ帰ったのでした。

説明は色々あったけど、残念ながら記憶に残っているものは少ない。まあ、色んな春の草花の咲く草原を歩いて、心地よい時を過ごすことが出来たことで良しとするか。(歩行数は、9844歩)。

(今回のトレッキングで、参加記念にくれた扇子に書いてあった「第5回 JAFみんなのエコ川柳」)

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| ・大賞                | 白熊の 涙で増える 海の水         |
| ・MAKE CARS GREEN 賞 | エンジンを 吹かせば地球 むせかえる    |
| ・エコドライブ賞           | 新天地 探しあぐねる 渡り鳥        |
| ・JAF メイト賞          | 消したわね 暗闇トイレ 妻の声       |
| ・JAF出版賞            | おしゃべりな 子だとテレビを 消して知る  |
| ・JAF サービス賞         | 捨てられた ゴミがつぶやく 「まだやれる」 |
| ・子ども部門賞            | さかなさん きれいなみずで およぎたい   |
| ・中高生部門賞            | ごみ箱に 忘れ物した 気がしてる      |

(追申)

・トレッキングの前日(5月25日):美祢市の義妹宅の田植えの助っ人(+夜の慰労会)。

・秋吉台トレッキング(5月26日):上記のとおり。

・トレッキングの次の日(5月27日):山口市きらら浜で、天皇・皇后両陛下を迎えての全国植樹祭への参列。

(早朝集合。会場まで指定バスで移動。式典会場では、炎天下で、プロローグから始まり、記念式典での全国の偉いさんのお祝辞、両陛下のお手植え、メインセレモニー、陛下退席後のエピローグ。お弁当を頂き、移動して、今度は自分たちの植樹等々。天皇皇后両陛下は、一万人の後部座席からは遠く、貴賓席は暗く、その姿は殆ど見えない。それより猛暑のなか、何時間も屋外座席で大変でした。)

その日の夕方、骨折で入院中の自治会内のIさんの入院見舞。

と、このところ少し忙しい毎日でした。



